

県立足柄上病院
産婦人科の問題



上病院でお産ができなくなるらしい

昨年の夏頃より、「上病院でお産できなくなるらしい」という噂が聞かれはじめました。実際に来年四月以後のお産の受付を控えていたということでした。



医師会長の私も人づての話でした。

九月末ある会合で顔を合わせた上病院の事務関係者より、「来年四月より上病院で出産できなくなる」ことがほぼ決った事と、横浜市立大学の産婦人科で、来年四月より医師を引きあげる事が決ったと告げられました。

産科・小児科の医師不足

産科、小児科の医師は全国的に不足しているという。

病院に勤務する医師としては、当直勤務が他科の医師に比べ、何倍も多い。

上病院の産科など三人勤務の所では三日に一回は夜間当直があり、昼間も勤務しているわけだから、病院に居づめのようになるらしい。

そのうえ、医療訴訟が最多ということと、産科医になりたいと希望する者が減少しているという事です。

そこに新しい医師教育制度が発足し、大学に医師が必要となり、これまで派遣していた病院からも、医師を引き揚げざるを得なくなつて来たということとです。



県立病院の問題だが、困るのは地域住民

これは県立病院の問題なので、県と病院、横浜市大産婦人科教室など協議は行われたらしいのですが、正式決定が出てい

ないので医師会にも連絡はなかったということとです。

十二月七日、県西地域の産科医療に係る関係者会議があり、初めて全体の経過と今後の予想が検討された。

ここで上地区住民のお産は小田原その他周辺地域に依存することが確認された。

この頃より上地区各自治体の議会などで、このことが問題となり上病院では産科を継続するため横浜市大以外からも医師を募集しているという。

各市長から県知事、衛生部の働きかけ盛んになる

上病院産科問題は何とかかなりそう。

来年になり「上病院産科はどうにか継続されそうだ」というニュースも入ったがまだ未確認の状態。

困るのはこの地域の住民なので、県立病院の問題なので、ハッキリしない部分が多いが、良い方向に向きつつあるようです。

今年のインフルエンザ
流行について



昨年末より嘔吐、下痢の力ゼがかなり流行していますが、この地区ではインフルエンザはまだまだ流行してはいません。しかし、ポツポツ出てきています。

当院でも昨年末に二名出ました。学校や会社が始まりますと流行することも考えられます。

普通インフルエンザは急激な高熱で始まるとされていますが、そうでない人もいます。

疑わしいときは早目に「受診下さい」。



予防接種を予約されてまだ未接種の方は、早急にお受け下さい。



1月・2月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜

E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
受け付けからのお願い
月初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。
編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。

院長